

つながい！元気！感動！
～笑顔がつくる明日の平塚～

第53回

子ども大会特集



令和5年9月1日

平塚市
青少年指導員
連絡協議会

平塚市青少年指導員については
二次元コードから



港地区子ども大会

港地区青少年指導員

5月14日(日) 港小学校の校庭で第53回港地区子ども大会が開催される予定でした。

今年は何年通り(スタン普拉リー)の開催を目指し、スタッフ一同準備をしておりましたが、当日の朝、中止せざるを得ない程の激しい雨を目の当たりにし、やむなく断念……。楽しみにしていた子ども達のことを思うと、悔しさが残ります。



なので、昨年行われた第52回港地区子ども大会を紹介致します。
「みんな なかまだ ともだちだのびのびあそぼう 子ども大会」
このテーマを主旨に、3年振りとなる子ども大会で、パラリンピックの正式種目でもある「ボッチャ」にチャレンジしてもらいました。

新型コロナウイルス感染が収束しない中、青少年指導員の予想を上回る参加者が集まりました。



基本的な感染対策はもちろんのこと、子ども130人、地区ごとに2部制にして実施しました。

私たちも初めての試みに戸惑いや不安もありました。まずはルールを覚えることから始め、審判と選手に分かれて、当日、楽しくスムーズに試合が行えるよう何度もシミュレーションしました。

自分たちが体験していく中で「こんなに大人が夢中になるのだから、きっと子どもたちも喜んでくれるはず。楽しいに違いない」とみんなの心の中に大きな自信と子ども大会を成功させたいという思いが生まれました。



参加してくれた子ども達からは「楽しかったらもう終わり?」「また、ボッチャやりたい!」など、嬉しい言葉と沢山の笑顔を頂きました。

子ども大会に初めて参加した青少年指導員からは「子ども達が競い合い、喜び合い、楽しんでくれたことが何より嬉しかったです」「コロナ禍での開催となる為、不安もありましたが、子ども達の笑顔に触れ開催して良かったと強く思いました」という感想をいただきました。

大人も子ども達も、中々触れ合うことが許されない期間が長かっただけ

に、少しでも楽しい時間を共有できたことを嬉しく思います。

富士見地区子ども大会

～富士見地区青少年指導員～

明け方迄、振り続けた雨も上がり、第53回富士見地区子ども大会（地域情報局5月9日（火）の記事を参照。
http://hiratsuka.johokyoju.net/area/fujimi/default.asp?c_id=41358）が始まりました。



朝7時から青少年指導員のメンバーでサッカーゴールを運んだり、校庭

に長机を並べたりしていると、「またこの季節がやって来た」4年ぶりの感慨と、これから始まる騒然たる日々への期待で胸が満たされてゆきます。



8時になってお手伝いの育成会、PTA、ボイスカウト、ジュニアリーダー等、地域のお手伝いの方も集まり本日の段取りを説明します。4年ぶりということで初めての参加の方が大多数で上手く伝えられているのかどうか、心もとなさを抱きますが、そんな気持ちとはうらはらに富士見小のグラウンドは子供達の喧騒で溢れかえってきます。そうなるともう大忙し、懸念を抱える余裕などありません。

開会式と準備体操を早々に終わらせて、いよいよ記録会がスタートしました。いい記録が出て大喜びしている子、恥ずかしくて尻込みする子、はたまた気合いが入りすぎて失敗する子

等々、そこには4年前と何も変わらない笑顔がありました。最終種目の「お菓子でダッシュ」で450個用意した参加賞のお菓子の袋詰めも綺麗に無くなり、各種目の入賞者の表彰式と閉会式を終えて子ども大会は終了。



後かたづけをしている我々の傍ら子供達や保護者の皆さんが「ありがとうございます」と声をかけてくれます。心にひろがる嬉しさ、この「ありがとう」って日々の生活の中で受ける「ありがとう」とは明らかに違うのですよね。何というか、ひとかけらのてらいもなく受け取れるのですよね。そして心の底から「良かった」って思えるのです。これが聞きたくてボランティア活動しているのですと言ってもいいくらい。

コロナ禍が明けて、世間ではPTA離れや町内会離れの話が取り沙汰

されますが富士見地区青少年指導員は、この「ありがとう」を聞くためにこれからも活動に取り組んで行きます。地域の皆さん、そして子供達へ、いつも青少年指導員の活動に協力してくれて「ありがとうございます」。



城島地区子ども大会

～城島地区青少年指導員～

6月25日（日）、城島小学校体育館にて「第53回城島地区子ども大会」を開催いたしました。テーマは『遊びを通して、新しい友達を作ろう』です。昨年度は、新型コロナウイルス感染症対策のため、参加人数を制限し、内容も「ユニカール」の体験を行いました。それでも子どもたちは、はじめてのスポーツにわくわくしながら楽しそう

に取り組んでいました。

ここ最近の子ども大会は、いくつかのゲームを通して、子どもたち同士が話し合っ作戦を考えたり、様々な人たちと関わったりすることを目標にしていました。時には、来賓の方々にも参加していただきました。

今回は、新型コロナウイルス感染症に配慮しつつ、子どもたちが多様な人たちとなるべく多く関わることができるとような内容を考えました。また、6月開催のため体育館とはいえ、熱中症にも配慮しました。



そして当日は以下の内容を行いました。

「1 進化じゃんけん」

はじめは全員がカブトムシ。じゃんけんに勝つことで、アヒル→人間→天使(ゴール)になります。じゃんけんは、とても簡単にコミュニケーションをとることができます。子どもたちは、学年にかかわらず、様々な人たちが

とじゃんけんをして、盛り上がりつつありました。

「2 猛獣狩りへ行くようよーさいころトーキング」

リーダーに合わせてみんなで声や身振りをまねしながら、最後に人数を合わせて座ります。大きな声を出すことや体を動かすことが制限されましたが、久しぶりに「みんなで合わせる」ことの喜びを感じていたようでした。



その後、5人チームを作り、サイコロをふって出た質問に答えます。質問の内容は、①すきな勉強 ②すきな給

食のメニュー ③すきな遊び ④すきなテレビ番組 ⑤すきな動物 ⑥すきなキャラクターです。



子どもたちは、いつもとは違う人たちと円になって、楽しそうに話をしていました。中には「そうなんだ」「私も」などという声も聞かれました。新しい発見の連続だったようです。2回行いました。もちろん違うメンバーで。

「3 魚釣り」

魚(袋に入ったパン)を釣り竿で釣りました。うまく釣れない人には、教えたり手伝ったりする姿が見られました。

「4 ビンゴ大会」

高学年と低学年を隣同士にして、一



緒に楽しめるようにしました。低学年の中にはビンゴゲームが初めての人もいましたが、高学年に教えてもらいながら、楽しく行うことができました。子どもたちには「多様な人たちと折り合いをつけながら生涯にわたって幸せな人生を歩んでほしい」と願い、制限のある中ですが、様々なコミュニケーションが図れるようにと考えた今回の子ども大会でしたが、子どもたちにとってはたいへん好評でした。

なでしこ地区子ども大会

「なでしこ地区青少年指導員」

6月25日(日)なでしこ小学校体育館で「第53回なでしこ地区子ども大会」を開催しました。

コロナ禍の影響により、昨年度2年ぶりに復活し2部制で開催しましたが、今年度は5類への移行により3年ぶりの全学年一斉開催となりました。なでしこ地区の子ども大会は、1年ごとに実施内容を「もの作り」「食べもの作り」体験と毎回異なる内容で開催していましたが、一斉開催の密による感染予防を考慮し、小学校長と協議を行い、2年連続の「もの作り体験」にしました。

今年度はテーマを「ペットボトルで“自分だけのライト”を作ろう♪」とし、空きペットボトルを自由にデコレーションしてランプ作りに挑戦しました。



大会当日は小学生89名、未就学児5名、関係者・保護者を含め181名の参加で開催し、参加した子ども達は、

セロハンやシール、紙粘土を使い、思うままに様々なデコレーションでペットボトルを飾り、青指メンバーや関係者から「子ども達の発想はホント素晴らしいね」とデザイン力の凄さに感心しました。そして、子ども達の真剣な眼差し、お友達同士で仲良く笑顔で取り組む姿を見て、やっと例年に近い「子ども大会」が戻ってきたと感じました。



また、もう一つ、おまけ工作として「スーパースポール作り」も行い、簡単な工作ではありましたが、自分で形づくりをしたスーパースポールをお友達同士で楽しむ姿が印象的でした。

最後は参加者みんなで記念撮影をして終了しました(写れなかった子どもいますが……)。子ども大会が復活して2年目となり、やはり、青少年指導

員活動は「子ども達の笑顔を引き出す」ことで、指導員の活力になることを再実感することができました。



今年度の開催にあたり、全面的にご協力いただきました、なでしこ小学校当日、子ども達の見守りに協力していただきました各地域団体さまに感謝申し上げます。ありがとうございます。

広報委員のつぎやき



5月以降、かつての仲間と久々に会う機会が増えてきた。コロナ禍の出来事を話し合ったり、もちろん思い出話に花を咲かせたりと楽しいひと時を過ごしている。その際、アルコールを口にする機会も当然あるのだが、以前

に比べて酔いが回るのが早くなった気がする。会食を控えていて弱くなったのか、それとも加齢によるものか……。

新型コロナウイルス感染症も5類となり、様々なイベントが復活している。コロナ禍前と同じレベルでできるものもあれば、新たな形で工夫しながら行っているものもあるだろう。

いずれにしても「どうやったらずどもたちがワクワクするか」を考えながら会議すること、そして、そのイベントが実施できること、何より子どもたちが楽しんでる姿を。

1つ1つのイベントを大切に。

花水地区 高橋 幸宏

【広報委員会】

委員長	松が丘地区	荻原 智隆
委員	花水地区	高橋 幸宏
委員	豊田地区	伊東 多恵子
委員	神田地区	土屋 裕之
委員	城島地区	南雲 真理子
委員	金田地区	村形 伸一
委員	真土地区	石井 康仁
委員	志三地区	田邊 貴也
委員	松延地区	伊川 眞理
事務局	青少年課	高島 正和
委員	宇田川	純平